

令和5年度国立那須甲子青少年自然の家の家教育事業

デイリーなすかし四季の森まつり 報告書

1. 趣旨

四季の体験活動をととして、自然や芸術、文化活動の魅力を伝えるとともに、幼児期の自然体験活動を推進する。

2. 期日

初夏の森まつり：令和5年7月9日（日）

残暑の森まつり：令和5年9月3日（日）

秋の森まつり：令和5年10月8日（日）※事業中止

3. 会場

国立那須甲子青少年自然の家（福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1）

4. 参加者

初夏の森まつり：152 家族 582 名

残暑の森まつり：24 家族 82 名

秋の森まつり：事業中止（72 家族 281 名の申込）

4. 各回の活動内容

（1）初夏の森まつり

たき火体験、金魚釣り、森探検などの自然体験活動を中心に5つの活動ブースを開設した。たき火体験ではキンドリングクラッカーを用いた薪割り体験、森探検ではフィールドビンゴを用いた森の中での自然観察など、アウトドアや自然体験になじみがないと体験する機会の少ない活動を提供した。

参加者からは「薪割り焚き火体験が良かった」「普段はできない貴重な体験ができました！大自然の空気もとても気持ちよかったです」「とても子どもが満足した様子があり、親としても参加させて良かったです」などの感想が寄せられた。



図1 薪割りの様子

（2）残暑の森まつり

初夏の森まつりのブースに加え絵本ヨガブースと森の絵本館ブースも開設して実施した。絵本ヨガブースでは絵本専門士の近藤麻智子氏とヨガインストラクターのYUI氏を講師としてお招きし、親子で絵本の朗読を楽しむとともに、ストーリーに合わせたヨガを体験した。



図2 絵本ヨガの様子

参加者からは「自然豊かな場所でおいしい空気を吸って英気を養うことができました。普段なかなかできない体験ができました」「親子で自然に触れ合いながら楽しむことができました。また参加したいです」などの感想が寄せられた。

(3) 秋の森まつり

那須どうぶつ王国の協力のもと、どうぶつ王国で飼育している動物の生育環境を作る「ジオラマ作り体験」や、当施設の森にいる生き物や植物を、顕微鏡を用いて観察する「土壌生物を探そう！」などのブースを開設する予定であった。

しかし、落雷による当施設本館の停電の影響で中止となった。

6. 事業の成果と課題

(1) 成果

- ・ 各ブースの体験内容を見直し、体験を通して学ぶことができるような環境構成としたことで、体験の質の向上を実現し、参加者の満足度向上へとつなげることができた。
- ・ 新たに那須どうぶつ王国との連携を模索し、当施設単独では提供の難しい専門性の高い体験活動の提供を目指すことができた。事業中止に伴い活動の提供はできなかったものの、次年度以降も継続的に連携できる足掛かりとなった。

(2) 課題

- ・ 令和4年度に引き続き、残暑の森まつりの参加人数が他と比較して少ない傾向にある。事業趣旨を踏まえればより多くの参加者を確保することが望ましいため、開催時期や事業名の妥当性を検討し、次年度以降改善を図る必要がある。
- ・ 新規事業として立ち上げた令和4年度から、提供している活動が固定化してきている。多様な体験ができる場として発展させていくことで、幼児期の自然体験活動を推進という事業趣旨がより達成されると考えられるため、次年度以降も新規の活動を提供していくことが望ましい。

【作成】事業推進係員 杉本守